

なくした街  
なくした言葉  
それでも  
僕たちは夢を見た



ADEMIR  
KENOVIĆ

廃墟と化したサラエボで、詩人ハムザは瞳に希望をたたえた少年たちと出逢った。

# パーフェクトサークル

第10回東京国際映画祭グランプリ・最優秀監督賞受賞

第50回カンヌ国際映画祭監督週間オープニング作品

第1回フランソワ・シャレ賞、カンヌ・ジュニア賞

パリ国際映画祭審査員特別賞受賞

ロカルノ国際映画祭正式出品作品 ● エルサレム映画祭ヴァン・リール賞受賞

ケベック映画祭観客賞受賞 ● サラエボ映画祭オープニング作品

財団法人 日本ユニセフ協会 **unicef** 推薦

**アデミル・ケノヴィッチ監督作品**

ムスタファ・ナダレヴィッチ「ババ」は、出張中 / ● アルメティン・レタ ● アルミル・ボドニツァ  
製作 / シルヴァン・ビュルステイン / ダーナ・ロットベルグ / ベテル・ヴァン・ヴォーグルボエル ● 監督・脚本 / アデミル・ケノヴィッチ  
脚本 / アブドゥラフ・シドラン「ババ」は、出張中 / ● 脚本協力 / ビエール・ジャリツァ ● 音楽 / エサド・アルオウタリッチ / ランコ・リフトマン  
撮影 / ミレンコ・ウヘルカ 配給 ● 大映 (1997年 / ボスニア・フランス合作)

LE CERCLE  
PARFAIT

une coproduction franco-bosniaque PARNASSE INTERNATIONAL / DOKUMENT SARAJEVO avec LA SEPT CINEMA, LE CENTRE NATIONAL DE LA CINEMATOGRAPHIE, la participation de CANAL+ et de PARMEDIEGETO FILM, de la RTV BiH et de JADRAN Film  
coproduit par ARGUS FILM PRODUKTE avec la VPRO Television et OBJECTIV FILMSTUDIO et le soutien de La FONDATION GAN POUR LE CINEMA - distribué par LES FILMS DU LOSANGE





## 言葉を失った詩人と、 幼い戦争孤児の出逢い

1991年に始まったユーゴ紛争は、翌年4月、ボスニアに飛び火し、首都サラエボはセルビアの勢力に包囲された。詩人・ハムザの妻と娘は街を脱出し、ハムザはわずかな酒と自らの死の幻影と暮らす、孤独な日々を送っていた。

激しい銃撃と冷たい雪に閉ざされたその年の冬、ハムザの家に幼い戦争孤児の兄弟が迷い込んできた。兄のケリムは耳が聞こえないが、弟のアーティスと懸命に助け合い生きている。二人の無垢な心と接するうちに、ハムザの心の闇も薄れ、やがて三人の間には家族のような交流が生まれはじめた――。

## 戦火の街で誕生した 真実の「サラエボ物語」

「パーフェクトサークル」の製作は、サラエボが包囲された1992年に始まった。ケノヴィッチ監督は、詩人アブドゥラフ・シドランと戦火のサラエボにとどまり、砲撃のために穴だらけになったホリデイ・インの一室でこの映画の脚本を書き続けた。同時にケノヴィッチ監督は、銃弾の飛び交う街に出て、周囲でおこる出来事を、毎日カメラに収めるという作業を続けた。やがて彼らは苛酷な日々の中で、映画に新しい方向を見出した。

「悲惨な現実に対して、私たちは詩のように簡潔で小さいけれど、素晴らしい出来事を積み重ねることによって生き延びる方法を見つけたのです」。この映画には、当時のサラエボ市民の生活が描かれている。ケノヴィッチ監督は、傷ついた犬を命を賭けて救う少年の話など、実際に経験した出来事を、美しい詩のような映画に昇華させた。

ユーゴ問題は分りにくいといわれるが、人としての生と死、愛、友情はこの映画により国境を越えて強烈にあなたのものとなります。

(脚本家、JHP・  
小山内美江子さん 学校をつくる会代表)

戦火の下、子どもと大人が血縁を越えて、共に生きる姿。その真摯な姿と、平和への姿勢を、「あなた」と分かち合いたい。

落合恵子さん(作家)



東京国際映画祭  
グランプリ・最優秀監督賞  
ダブル受賞！  
世界中の涙と賞賛を呼んだ  
感動作がいよいよ日本公開へ

## そして1996年、 奇跡のキャストを得て 撮影は再開された。

脚本のシドランの分身ともいえる詩人ハムザを演じたムスタファ・ナダレヴィッチは、「パパは、出張中／」の伯父役で日本でも知られるベテラン俳優。彼はタイトルにもなっている「完璧な円」を劇中見事に一筆で描いてみせた。またそれ以上に素晴らしいのが、戦争孤児の兄弟を演じた二人の幼い子供たちである。4,000人以上の子供たちから監督が最後を選んだのは、難民キャンプにいたこの少年たちだった。彼らはそれまで、映画を観たことが一度もなかった。

## パーフェクトサークル

LE CERCLE  
PARFAIT

耳の聞こえない兄ケリムを演じたアルミル・ポトゴリツァは「天性の俳優」であり、厳しい寒さの中、早朝からの撮影に誇りをもって挑み、弟アーティスを演じたアルメティン・レレタは、撮影がすすむにつれ、ハムザを自分の新しい父親だと思うようになったという。

## タイトル「完璧な円」の意味

ケノヴィッチ監督は、二度と戦争の過ちを繰り返してはならないと、平和への祈りをこめてこの映画を製作した。ここには、生命の尊さを諷し、人間の優しさを信じようとする監督たちの思いがあふれている。

ケノヴィッチ監督は、サラエボで起きたことは市民の間の戦争ではなく、市民に向けられた戦争だったと断言している。だからこそ映画には、敵としてのセルビア人は描かれていない。むしろ、ハムザと子供たちを始終助ける隣人が、「マルコ」というセルビア名であることを、見逃すことはできないだろう。

タイトルの「パーフェクトサークル」については、「包囲されたサラエボ」「調和への祈り」「新しい家族」など様々な見解があるが、来日したケノヴィッチ監督は、観客のひとりひとりが感じたことがその答えになる、しかし自分としては「戦火の中で、人間性を保とうとするサラエボの人たちの共存」といわれたことが一番嬉しかったと語っていた。

1997年/ボスニア・フランス合作/ボスニア語  
カラー・108分/配給・大映

6/27(土)→7/24(金)感動のロードショー!!

特別鑑賞券1500円好評発売中!! 当日/一般1800円、大学・高校生1500円  
中・小・シニア1000円

く「パーフェクトサークル」公開記念! もうひとつのユーゴ民族紛争を真っ向から描いた感動大作!! 連続モーニングショー『ビフォア・ザ・レイン』ベネチア映画祭 金獅子賞 7/4(土)~10(金) AM10:10  
『ブコバルに手紙は届かない』7/11(土)~17(金) AM10:30 ※「パーフェクトサークル」のチケット半券をご提示の方は1000円

上映時間  
12:20 2:30 4:40 6:50

※7/10(金)の6:50の回は休映

シネ・ヌーヴォ  
地下鉄中央線「九条駅」6番出口下車  
大阪ドーム方向へ徒歩2分  
TEL06-582-1416

地下鉄中央線				一本町
九条駅				6番出口
大阪港	モルタル	マクドナルド	うどん	
シネ・ヌーヴォ	交差点	パチンコ	7番出口	
		大阪ドーム	商店街	